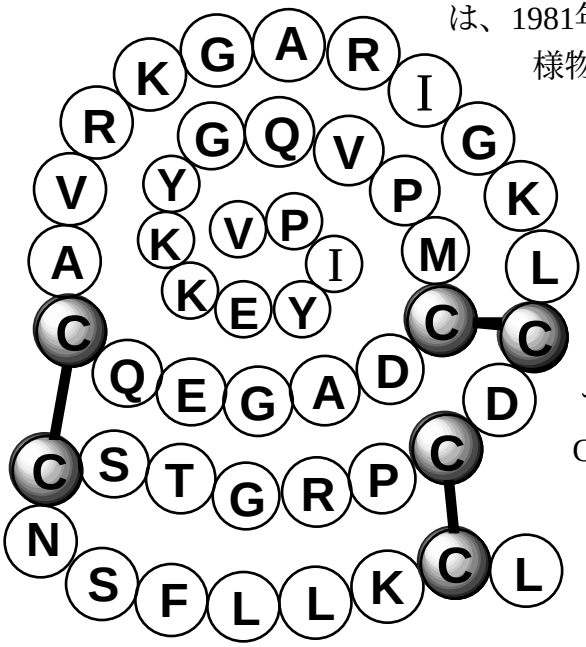
CART (55-102)

注目の摂食抑制ペプチド

中枢の摂食調節には多くのペプチドや蛋白質が関与しています。これらは互いに影響しあって調節機能を発現しています。ここでは、活性中心が部分構造に認められる摂食抑制蛋白性因子について紹介します。

CART (cocaine and amphetamine regulated transcript) の部分構造に相当するCART (55-102) は、1981年にヒツジの視床下部に存在するソマトスタチン様物質の検索中に初めて見出されました。最近になって、摂食を抑制する作用が認められて注目されています。マウス脳内に0.1-2.0 μgを適用すると用量依存的に摂食量の抑制作用が認められました[*FEBS Lett.*, **428**, 263 (1998)]。このCART の作用は食欲抑制に関わる他の蛋白質である leptin と関連することが示唆されています[*Nature*, **393**, 72 (1998)]。一方、生体に存在するCART の分子種に関する研究も進んでおり、脳内の部位特異的に CART(55-102)を初めとする種々分子種のペプチドが存在することが明らかにされています[*Regul. Pept.*, **89**, 1 (2000)]。また、CART は中枢のみならず小腸、副腎髄質や膵臓 (islet) などの末梢にも存在することが認められています。しかし、心臓、腎臓や肝臓での報告はありません。CART の存在するこれらの末梢での詳しい役割の解明はこれからの問題です。



CART (Human, 55-102)

コード	製品名	包装・容量	価格
4350-s	**CART (Human, 55-102)***	**0.1 mg vial**	**￥30,000**
4351-s	**CART (Rat, 55-102)***	**0.1 mg vial**	**￥30,000**

*: CART には102アミノ酸残基からなる long form とともに89残基の short form があり CART (55-102) を CART (42-89) とも呼びますが同一のものです。

◎本品は有機化学的に合成された高純度な研究用試薬です.

関連商品	コード	製品名	包装・容量	価格
食欲抑制	4057-v	α-MSH	0.5 mg vial	￥ 5,700
食欲促進	4366-s	Agouti-Related Protein (Human, 86-132)	0.1 mg vial	￥30,000
	4158-s	NPY (Human, Rat)	0.1 mg vial	￥12,000
	4162-s	NPY (Porcine, Bovine)	0.1 mg vial	￥12,000
	4369-v	Melanin-Concentrating Hormone (Human)	0.5 mg vial	￥15,000

株式会社 ペプチド研究所

〒562-8686 大阪府箕面市稲4丁目1番2号

電話: 0727-29-4121 FAX: 0727-29-4124 http://www.peptide.co.jp/